

第 6 次白岡市総合振興計画基本計画（案）に対する
パブリックコメント実施結果

1 件名

第 6 次白岡市総合振興計画基本計画（案）に対するパブリックコメント

2 目的

第 6 次白岡市総合振興計画基本計画を策定するに当たり、この案を公表し、
広く市民の意見を求めたものである。

3 公表した資料

第 6 次白岡市総合振興計画基本計画（案）

4 実施期間

令和 3 年 1 2 月 2 2 日（水）から令和 4 年 1 月 2 1 日（金）まで

5 公表場所

- (1) 市役所（1 階市政情報コーナー及び 3 階企画政策課）
- (2) 保健福祉総合センター（はぴすしらおか）
- (3) 生涯学習センター〔こもれびの森〕
- (4) 中央公民館
- (5) コミュニティセンター
- (6) 市公式ホームページ

6 提出意見

別添のとおり

7 意見に対する考え方

別添のとおり

「第6次白岡市総合振興計画基本計画（案）」に係るパブリックコメントの結果について

総合政策部企画政策課

番号	意 見	意 見 に 対 す る 考 え 方
1	基本計画書拝見しました。多岐にわたり詳細に記載され目標とする方向も理解できました。SDGsなども取り入れ今の情勢を反映した取り組みと理解します。私は白岡市でもうすぐ6年になりますが気になる点をいくつか記載します。 ・市街地整備が非常に遅れている。あんな駅前今時ありません。テナントビルもないので子供の学習塾でさえ賃貸アパートなど実施している始末。 ・同様に道路整備がお粗末。駅前道路でさえ狭小で歩行者、車両、自転車が混とんとした状況で駅から100mもいけば農道が幹線道路の役割を果たしている。 ・通学路でさえ歩道やガードレールがない。 ・市内で日用品買物が完結できない（食料品のみ市内）。 ・自然があると言いながら不法投棄などで河川や田んぼはゴミだらけ。 はっきり言って目標としている記載内容と実態が合っていません。住みやすいや通勤可能距離をうたい文句にしていますが、他市と比較して行政としての役割が果たせていないと感じています。結局最後は財政難のためできないもしくは時間がかかるという結論に行き着くのでしょうか、であればもっと財政健全化する仕組み（企業誘致や定住者促進のための開発）に力を入れるべきではないでしょうか？みなさんが白岡駅に初めて降り立った時、この街に住みたいと感じますか？その感覚が欠如していると思います。	本計画では、駅周辺地域への都市機能の立地誘導を含む「交通ネットワークの充実」や財政基盤の確立に向けた「行財政改革の推進」を重点的に取り組む項目として掲げています。

2	1 全体的な感想 政策目標と施策の中で、施策の目標、成果指標、現状と課題、施策の取組、協働の取組、関連する個別計画で構成され、読みやすかった。また、その施策の中でSDGsとの関連性を表示していることはよいと思いました。社会情勢に取り残されない計画であることを読まなくても理解できると思います。 2 政策目標について (1) 「成果指標」と「現状と課題」との関連性について 成果とする指標の目標とその現状・課題をコメントしていますが、全ての指標に対する現状と課題のコメントはないのが散見されます。紙面の都合上割愛しているのでしょうか。計画の要約ですので、記載していない旨を表示するとより親切かと思います。 (2) 施策目標2 施策3 環境の保全について(24ページ) 上記(1)の視点から、「施策3 環境の保全」をみてみました。その結果、河川BOD濃度の基準値達成や市街化区域内の保存樹林の指定面積についての現状と課題の記載がありません。現状はどの程度のレベルなのでしょうか。 「河川BOD濃度の基準値達成」の目標は5mg/ℓ以内であり、現状から変わっていません。令和2年度の6河川のBOD濃度は0.6～3.6mg/ℓで既に目標は達成しています。5mg/ℓは本川のC類型を採用していると思いますが、見直しが必要かと思っています。 【提案】 総合振興計画で上位計画のC類型をB類型の3mg/ℓにすることはできないと思いますので、視点を変えてみてはいかがでしょうか	本計画は、施策ごとに目標を設定しており、目標に対する成果を把握するために成果指標を設定しています。また、施策の現状と課題を整理し、これらに対応するとともに目標の達成に資する取組を掲載しています。このため、「成果指標」と直接連動しない「現状と課題」も掲載しています。 保存樹林の指定面積は、減少傾向にあるため、現在見込まれている増加分を考慮した上で現状を維持する設定としています。 白岡市環境基本計画における河川BOD濃度の基準値達成（市内6河川／夏・冬季）の目標値は、環境省が定める生活環境の保全に関する環境基準（河川）や埼玉県公共用水域及び地下水の水質測定計画を踏まえ、5mg/ℓ以内に設定しています。本計画では、これらを考慮し、維持すべきものとして当該数値を設定しています。
---	--	--

ようか。 例えば、防災調整池として岡泉防災池を最近構築されていますが、隼人堀川の菁莪小学校地点の水質をみると、夏季0.6 BODmg/ℓ、N／P比は16.5と調整池内の富栄養化現象をもたらす比となっています。現状はどのようなになっているのでしょうか。河川だけではなく、柴山沼や人造湖などの水環境等の保全する視点はいかがでしょうか。 (3) 表現について 「河川BOD濃度の基準値達成（市内6河川／夏・冬季） 市内6河川の各採水地における水質汚濁を一定基準以内に維持すべく定期監視するもので、各採取量1ℓに占めるBOD濃度の割合」は間違いではないのですが、気になります。定期監視は、「一定基準以内に維持」するものではないと思います。あくまでも現状を把握するための調査ではないのでしょうか。結果として基準値以内であるか否かを判断するものかと思います。また、「採取量1ℓに占めるBOD濃度の割合」はBOD濃度を示すものであり、割合はなじまないように思います。 【案】 市内6河川における水質汚濁をBOD濃度で定期監視するもので、BODは河川における有機物による水質汚濁の指標 (4) 施策目標5 施策2 上下水道の充実について(42ページ) 公共下水道料金経費回収率の現状が73.1%は低すぎだと思いますが、県内ではどの程度のレベルなのでしょう。27%の費用がどこから負担されているのでしょうか。その現状に関するコメントがなく、どのようにして目標100%を達成するのでしょうか。計画案では判りませんでした。	当該箇所は、指標の内容を説明している部分であり、BODの説明は、巻末の用語解説に掲載しています。御意見を考慮し、「市内6河川の各採水地で実施する水質汚濁の定期監視における各採取量1ℓに占めるBOD濃度」に修正します。 令和2年度決算における公共下水道料金経費回収率の県内平均値は、86.7%です。公共下水道は、特別会計で経理しており、経費回収率が達成していない費用は、一般会計から繰り入れている状況です。このため、令和3年10月6日に白岡市下水道審議会から提出された下水道使用料金の改定に関する答申書に基づき、料金改定に向けた準備を進めていきます。
--	--

3	1 政策目標 5 快適で誰もが住みやすいまち 施策 1 居住環境の整備 【施策の取組】及び【協働の取組】 4 1 ページ記載内容について「公園施設の維持管理」、また、「イベント開催で地域活性化」と記載されているが、既存公園に隣接する公有地を有効活用する方策や新設公園を計画的に市内に配置する内容も記載してほしい。 2 7 地域強靱化の推進に向けて (1)市民の役割 8 6 ページの記載について平常時から「自分たちの地域は自分たちで守る（共助）」の体制づくりを進めるとの記載と、8 4 ページ表中のライフラインの長期的停止等により、地域の衛生状態が悪化する事態…（施策の取組）に符合する 4 行政区への自主的な参加を促すとともに、集会所施設の適切な維持管理に努めます…に「○」と記載されている事柄に関して、次の意見を述べる。 7 1 ページ 5－3 上水道の供給や下水道機能が長期間停止する事態に関して、イ強靱化に向けた主な取組 ●災害に強い施設・設備を整備し安心安全なサービスを提供します…だけでなく「地域の集会施設に災害時を想定して、給水機能(防災井戸の設置)や非常用電源等の確保を推進します」と記載してほしい。	本市の公園の修繕や更新は、白岡市公園施設長寿命化計画に基づき、重点的に進めていきます。公園の新設は、土地区画整理事業地域内に位置付けているものを優先的に進めていきます。また、市有地の有効活用は、「効率的・効果的な行政運営」の取組として、行財政改革を進める中で検討していきます。 白岡市国土強靱化地域計画は、市の災害の基本となる白岡市地域防災計画に対し、指針となるものです。このため、集会施設への給水機能や非常用電源の確保などの具体的な施策については、白岡市地域防災計画の中で検討していきます。
4	基本計画と同時に発表された住民意識調査の問 2 9 で「市は生涯にわたって学習できる環境が充実していると思うか」に、「そう思う・ややそう思う」が 2 0. 3 %、「思わない」が 3 2. 6 %となっている。あれだけ立派な施設をつくって、施設の従業員の働きぶりも極めて良好・親切、それでもこの数値はなぜなのか、考えていただきたいと思う。 私が図書館を利用して感じることは以下のことである。	「社会教育の充実」における各種取組等を通じて、生涯にわたって学習できる環境の充実に努めていきます。また、これらの取組の中で図書館サービスも併せて検討していきます。

	・利用者に奉仕する図書館であってほしい。 ・予約可能な本は3冊のみ。周辺の図書館は（宮代も含めて）10冊まで可能。現状数か月待ちの本2冊あるため、実質予約可能本の枠は1冊のみ。 ・予約可能本の数の拡大を口頭で何度も何度も要請するも変更がない。聞く耳を持たないのか。内部で議論をしているのかどうかも不明。頑固で閉ざされた組織に見える（少なくとも外からは）。	
5	1 他の自治体では、ウォークアブルのまちへの取組が増えています。歩道整備は、高齢者・障害者・子育て世帯にとって緊急性の高い取組です。通学路の安全確保、観光客誘致にもつながります。歩道整備についても、計画に盛り込んでください。 2 行政区への加入促進とありますが、行政区と、行政区という名称の自治会が混同されており、行政区長の位置付けや会計についても本来なら分離すべきものと思われます。定義を整理して記載してください。 3 行政区と自治会の問題につながりますが、行政区費を払わないと、市報が配布されません。行政区加入と関係なく、行政区長は市報配布の報奨金を受領しているのではないのでしょうか。いっそ、配布の外部委託の検討など、情報が全戸に行き渡るように計画に盛り込んでください。	歩道整備は、「道路・水路の整備」において、幹線道路や生活道路の整備と併せて検討していきます。 行政区設置規則により市内45の行政区を設置し、行政区長には地域住民に対する連絡事項の伝達や市の広報紙等の配布をお願いしています。各行政区においては、行政的組織の一面と地域活動を行う自治組織の一面がありますが、その運営に当たってはそれぞれの組織的意義が一体であることから分けることはできないものと考えているため、総じて行政区と表現しています。 広報紙等につきましては、区費の納入にかかわらず行政区に配布をお願いしています。地域力の醸成や有事の際の連絡システムを維持させる必要があることから、今後も現在の配布方法を継続していきます。また、現在の広報配布の補完的な方法として、市公式ホームページや公共施設等に設置するなどの取組を行っています。
6	4 地域の産業が活発でにぎわいのあるまち 施策1 農業の振興について 現在でも増え続けている耕作放棄地について、現状耕作放棄地であるところについての方針がないように思えます。耕作放棄地につ	耕作放棄地は、統計上の用語であり、類するものとして、法律上では遊休農地と定義されています。本計画では、統一して遊休農地

	いて新規農業従事者への支援や農業法人の誘致などはわかるのですが、耕作放棄地解消に向けて、もう少し突っ込んだ計画を盛り込むべきではないでしょうか？ 施策 2 商工観光の振興について 現在の白岡市には、「商店街」と呼べるようなものは存在していないように思えます。例えば、本町通商店街は用途地域が商業地域であるにもかかわらず、店舗はまばらで、今では商店街と呼べるかどうか微妙なところです。このような商店街だった場所の再生だけを模索するのではなく、再開発をして人が集まることを目標に掲げてはどうでしょうか？再開発、現在存在するスーパーマーケット、それを補完する移動スーパーの充実で買い物難民の発生を防げるのではないのでしょうか？これからの超高齢化社会において、避けて通れない問題であると思います。	と表現しています。遊休農地の対策としては、新規就農者の支援や農業法人の誘致のほか、中心経営体への農地集積・集約の促進に取り組んでいきます。 「商工観光の振興」では、商店街の支援のほか、市街地整備と連動した商業環境の整備や商業集積を推進します。また、関係機関と連携し、引き続き、買物支援に取り組んでいきます。
7	日本全体で超少子高齢化が進む中、ほとんどの自治体で人口は減少し、しかし高齢層の割合は増加していくことは、既に自明ですので、白岡市が令和 13 年においても、現在とほぼ同じ約 52,000 人を維持できると設定しての総合振興計画であることに、まず無理があります。市の HP で公表されている白岡の人口の推移をみても、日本人は減っており、外国人の方の人口が増えていることで、市全体の人口が微増している状況です。また、人口が減っているのに、世帯数が増えているということは、1 人世帯が増加しているわけで、共助（家庭）よりも、より公助が必要になってくるでしょう。 重点取組項目とされている「1 交通ネットワークの充実」に書かれている、駅周辺に商業施設、医療施設、福祉施設の立地を誘導するには、先般、議会で承認された振興計画（案）に、はっきりと明	本市は、全国的に人口減少が進む中、人口を維持し続けています。将来人口は、令和 13 年には、51,454 人に減少されると推計されますが、出産・子育て環境の整備、産業の育成・支援等の施策を展開していくことにより、人口減少の抑制に努めるものです。 重点取組項目は、分野を横断して重点的に展開する取組として位置付けており、市民の皆様の御理解をいただきながら、各種取組を推進しています。また、コンパクトシティプラスネットワークにつ

	記された「コンパクトシティ」を市民に認知する作業が必要です。市は、今回の基本計画を遂行するに当たり、はっきりと「コンパクトシティ」に舵を切り替えたことを、今回の案にも明記する必要があります。今後は、駅周辺に行政や商業の機能を行政が主体となって進めていくことを、駅から離れた地域の市民に知らせなければならないでしょう。それと同時に、駅に向かう公共交通を整える協議が市民となされなければ、市民は納得しないと思います。それを、やれるか、曖昧なままにするのか、にかかっていると思います。 2の「農地利活用の推進」も、3の「行財政改革の推進」も、人口減少により、このままでは市は経ち行かなくなることへの対策としての重点項目であり、3つとも、市の機能を今までのようにちらばせるわけにはいかなくなる未来に向けて、「集積」ということです。その「集積」を、市民に広く理解してもらうための文章（コンパクトシティという概念）を追加することを求めます。	いては、「居住環境の整備」に掲げています。
8	障がい者福祉について 障がい者自立支援 ① 障がい者本人、障がい者家族の考え方にもよりますが、訓練費用の支給、助成や手当での支給だけが自立支援ではないと思います。資金が支給されても、機能訓練の場が少なく機会がありません。介護の負担軽減のニーズはあると思いますが、障がい者本人が自立に向けた社会生活を送るために必要な機能訓練を受ける機会を作る自立支援もお願いします。 ② 白岡市は乳幼児健診で「気になる子」に声をかけ、保健センターは就学前までフォローしてくれますが、その先は学校や福祉サービスの関わりとなり、相談した内容は引き継がれることがあります。場所が変わるたびに状況をはじめてから説明します。小学校1、2年生までフォローを保健センターで続けてもらうことで就学後の生活がスムーズに移行できると思います。	障がい者福祉の充実については、本計画のほか、個別計画である障害者基本計画等に基づき、各種取組を推進していきます。 関係機関との連携を図り、障害福祉サービスに対する適切な情報提供と質の向上に努めます。

学校教育の充実について ① 人権教育や道徳教育に加えて「交流学习」「体験学習」により、多様な人と共生する社会であることを学べる環境を作ってください。実際に関わり、体験することで学ぶことは大きいと思います。 ② 学校規模適正化は「小中学校の統合再編」を意味すると思いますので、明記していただきたいです。大山小が検討されていますが、他校と統合した場合、学区が広くなり、下校後の移動範囲が広くなることを考えていただきたいです。 ③ 特別支援教室について「ことばの教室」は、市内に1教室しかありません。篠津以外の児童は、保護者が学校間を送迎します。ことばの問題かかえている特別支援学級の児童は、ことばの教室に通うことができません(仕組みの問題のため)。子どもたちの悩みを軽くするためにも、市内の教室の数を増やし特別支援学級の児童も教室に通えるように検討していただきたいです。 農地の保全について ① 白岡市内のある地域では、農地が採算とれないような価格で売買されている事例があるようです。審議会では、圏央道インターチェンジに近いなどの利便性から「企業を誘致できる土地を探している。」という話がありました。ですが、農業振興地域は法律で農業用の土地利用しかできません。採算のとれない価格では、農業利用のために農地を買うことはできません。農地を保全するため、法律の範囲内での農地利用、農地売買を行うことを明記してください。 ② 高齢化のため、市内では耕作放棄地が増加しています。業者に耕作を委託する方も多いと聞きます。一方、農地の区画整理をし	各学年で確実に身に付けるべき基礎的・基本的な内容の定着を図るとともに、体験活動などを通じて、児童・生徒の学びの充実に努めます。 公共施設の適正配置は、これから検討を進めていきます。 特別支援学級やことばの教室等の課題は、今後においても検討を進め、特別支援教育の充実を図ります。 本計画における各種取組は、各種法令を遵守しながら、進めていきます。 農地の売買等については、各種法令により、制限されていますが、価格については、法令等による制限はされていません。 遊休農地の対策は、施策の取組のほか、重点取組項目として位置付け、推進していきます。
---	--

ていない地区は「水田の境界がわからない。」「水路が管理されていない」などの理由で、業者が受け入れを拒否し、耕作が放棄なされている状態が続いています。このような地区の区画整理を市が農家とともに推進することを盛り込んでいただきたいと思います。 道路整備について 都市計画道路白岡宮代線、白岡西口線 ① 白岡東口線と駅前広場の事業と合わせると８２億円かかる事業と聞きました。また、「市債を使って事業を進める」と聞きました。市債を使う理由として、「道路はこれからも使い続けるものであり現在の住民とこれからの住民が公平にその費用を支払う必要があるため」と審議会の説明がありました。ですが、これからの住民は、人口が減るため少ない人数で市債を返し、道路の維持管理費を払い、道路ばかりで交通量の少なくなった社会を担っていくことになります。市債を使わない範囲で、道路計画を進めることを盛り込んでいただきたいと思います。 ② 道路計画がどのように進んでいるのか、市民は知る必要があると思いますが、地元の地権者やごく周辺の住民にしか連絡がなく、工事が始まってから計画を知ることがほとんどです。道路の構造によっては、児童生徒の登下校やその他の歩行者、自転車で移動する市民に危険が及ぶ可能性があります。「誰もが住みやすいまち」を目指すために、計画を市民に周知させてください。 学校周辺の道路環境について ① 幹線道路は、通勤時間帯になると、渋滞が発生することがあります。朝は、児童・生徒の登校時間と重なります。渋滞の抜け道に通学路を使う車があり、スピードを落さない車両に危険を感じます。危険箇所には、保護者が立哨することかありますが、全て	白岡市総合振興計画審議会では、市債の機能として、世代間負担の公平性があることを説明しています。また、大規模事業は、多額の財源が必要なることから、市債を活用するものです。 都市計画道路は、優先順位を付けて整備を進めており、現在、白岡駅西口線、白岡駅東口線及び白岡宮代線の整備を進めています。工事に当たっては、必要に応じて、行政、近隣住民、学校に周知を図るとともに、進捗等については、広報紙等で周知を図っていきます。 道路計画の策定に当たっては、周辺環境等に配慮しながら、進めていきます。
--	---

はカバーできません。児童・生徒の安全を守るため、学校周辺に幹線道路を通すことは避けるように道路計画を立てていただきたいです。 ② 学校PTA役員が行っている通学路点検の調査結果を市に提出していますが、お返事がなかった年もありました。市と保護者が児童、生徒の通学路の安全を一緒に考える場が必要だと思います。市の関係課と保護者が年1、2回会議の場を設けて話し合い、安全で安心して暮らせるまちづくりを推進していただきたいです。 学校周辺の開発について 白岡市内の小中学校周辺には、水田地帯が広がっているところが多い。そのような水田を開発のために造成する計画がある。水田は土地が低い場所にあるため、豪雨の時に洪水になる危険性が高くなる。突然の豪雨の場合、児童・生徒が下校できなくなる可能性も考えられる。水路やため池を作る等対策が必要である。児童・生徒は、学校の周辺で地域のことを学習する時間が設けられている。自然の恵み豊かな環境に配慮した、開発の計画が求められる。白岡中周辺は数が減りつつあるサギ類の生息地となっている。ビオトープ等、美しい水辺環境をつくることで環境学習の場となり、自然環境と調和した開発となる。学校周辺の開発は、学校と連携して、安全で持続可能な環境学習の場として、計画的に事業を進める必要がある。 施策3 環境の保全 [現状と課題]に、自然環境や生物多様性の記述がないので追記してください。「白岡市では、生きもの調査や、農地、樹木や樹林の保全に取り組んでいます。一方、樹林地や農地の減少という課題も	保護者の方の意見を踏まえた通学路の調査については、各学校に対して、回答しています。今後も、通学路の安全確保に向けた取組を進めていきます。 優れた遊水機能を持つ水田等において、開発行為をする場合、雨水が開発区域外に流出することにより、豪雨の際に浸水害の要因となるため、雨水を適切に処理できるよう、法令に基づき、雨水浸透貯留施設や調整池の設置等を行うことを開発許可上の技術基準として、定めています。 本計画の「現状と課題」、「施策の取組」等については、主なものを記載していますので、その他の課題やそれに対応する取組については、関連する個別計画等において推進していきます。
--	--

	あります。」 〔施策の取組〕 ③環境保全活動を強化します。ここでいう環境は、主に自然環境であるべきなので、以下のように修正してください。 「身近な生活環境への→身近な自然環境への」、「地球温暖化や地球環境保全に配慮した→地球温暖化や生物多様性保全に配慮した」	
9	全体として問題と感ずるのは、個々の項目に対する予算規模への言及がないことです。「運営方針1」の施策1「安定した財政運営の推進」では「予算の重点配分に努める」とありますが、本計画に列挙されているどの項目に重点が置かれ、どのくらいの予算を充てるかが書かれていません。例として、道路、橋、上下水道等は、それなしに市民の生活が成り立ちませんが、これらの既存設備の中に老朽化が進むものが少なからずあると、ある審議会でも伺ったことがあります。本計画の「道路・水路の整備」中には、「橋が状況に応じて、監視や保全工事を行うことが望ましい状態であることが判明している」と述べられています。このような「外せない項目」をリストにし、修繕や更新等の長期計画を示すことこそが総合振興計画の骨子であると考えますが、この点は今後どのように検討され、開示されるのでしょうか。 次に歳入確保の手段ですが、単に「市債の活用」を言うだけでなく、概算でも時期と金額を示すことが必要と思われます。市税については、徴収率も重要ですが、白岡においてはこの数字は比較的良好と伺ったことがあります。それが正しいとするなら、その向上をさらに目指すだけでなく、より根本的な見直しが必要になるでしょう。「外せない項目」が概算いくらで、全体からそれを引くとどのくらい残るか。その金額で良しとするのか。不足なら、市債か増税か。このようなより具体的な議論を望みます。 最後に、細かいながら重要な点を指摘します。「失業した人が直	橋梁の修繕等については、長期的な計画である橋梁長寿命化修繕計画を策定し、また、上下水道事業は、中長期的な経営計画である経営戦略を策定し、公表しています。 各種計画を考慮しつつ、市債の活用を検討しながら、重点取組項目として位置付けた取組を中心に予算の重点配分に努め、安定した財政運営を推進していきます。 「失業した人が直ちに再就職できるよう就労支援を行うなど、よ

ちに再就職できず、生活保護につながって『しまう』」は、所持金がわずかな人に生活保護の利用を躊躇させかねない表現ですので、修正を求めます。第4章（国土強靱化地域計画）では、基本目標の最初に市民の生命を守ることの重要性を掲げています。人の力が及びにくい天災への備えで人命重視を筆頭に挙げるなら、制度の遵守や運用次第で十分守れる人命も同様に重視されるべきです。生活保護制度は、それなしでは死に至る人も出る「命の砦」であることを、より強く認識してください。	りきめ細やかな対応が求められます。」に修正します。
---	----------------------------------